

# 西粟倉村第6次総合振興計画（後期）

2026.4～2031.3



生きるを楽しむ  
百年の森林に育まれたむら

まえがき

本計画は、多くの村民の皆さまからいただいたご意見を基に、外部に委託をせず職員で作成し、表紙と裏表紙のイラストも村内のデザイナーをお願いした、西粟倉村お手製の計画になります。

そのため、村民の皆さまの協力なくしては作れなかった計画でもあり、改めて関わっていただいた皆さまに厚く御礼申し上げます。

また、本計画は全ての要素を網羅している計画とはなっていません。それは、人口減少が進む中でも活気ある村を維持していくための計画として、記載する内容を絞ったためです。

そのような計画ではありますが、村民の皆さま、西粟倉に関わっていただける皆さまにも、西粟倉村が何をどのように進めていくのかという観点でご一読いただけますと幸いです。

# 目次

村の概況（村の現在地） .....	1
総合振興計画の構成と位置づけ .....	7
基本構想 .....	8
(1) むらの将来像（どんな村でありたいか） .....	8
(2) むらづくりの基本理念（大切にしたい考え方） .....	8
(3) 人口ビジョン（人口の予測と目標） .....	9
(4) 目標人口の考え方について .....	10
基本計画 .....	12
施策体系（全体としてどのように取り組むのか） .....	12
攻めの施策【柱1：しごと】 .....	14
1、 基幹産業への支援 .....	15
2、 事業の創出と拡大 .....	17
3、 観光と交流の促進 .....	19
攻めの施策【柱2：ライフスタイル】 .....	22
1、 子育て支援 .....	23
2、 多様な住まいの確保 .....	25
3、 生涯学習 .....	27
攻めの施策【柱3：未来への投資】 .....	29
1、 IU ターン促進・村の PR .....	30
2、 脱炭素・生物多様性保全 .....	33
3、 教育・保育 .....	35
守りの施策【村を支える基盤】 .....	37
1、 健康・福祉 .....	38
2、 地域基盤 .....	40
3、 持続可能な行財政運営 .....	43
資料編 .....	45

# 村の概況（村の現在地）

## (1)同規模自治体との比較（西粟倉村と人口が近い全国 18 自治体）

### ①面積・人口

西粟倉はこんな村	面積が小さく、人口密度は高いコンパクトな村。子どもは多く、高齢化率も低め。
----------	---------------------------------------

項目	単位	西粟倉村	他自治体平均	19 位中○位	調査時点
総面積	km <sup>2</sup>	58	222	16	2020 年
可住地面積	km <sup>2</sup>	4	32	19	
人口密度（可住地）	人/km <sup>2</sup>	334	107	1	
年少人口割合	%	12.7	9.3	4	
高齢化率	%	35.4	42.8	5	

### ②人口動態

西粟倉はこんな村	出生は多め、人口減少も少なめであり、転入は平均的で転出は少なめ。
----------	----------------------------------

項目	単位	西粟倉村	他自治体平均	19 位中○位	調査時点
出生数	人	24	19	5	2020～22 年計
人口増減率	%	-4.1	-10.5	2	2010～20 年 平均
転入超過率（日本人）	%	-0.4	-1.2	4	
転入率（日本人） 1% = 100 人いて 1 名転入	%	3.4	3.6	9	
転出率（日本人） 1% = 100 人いて 1 名転出	%	3.9	4.8	6	

### ③産業

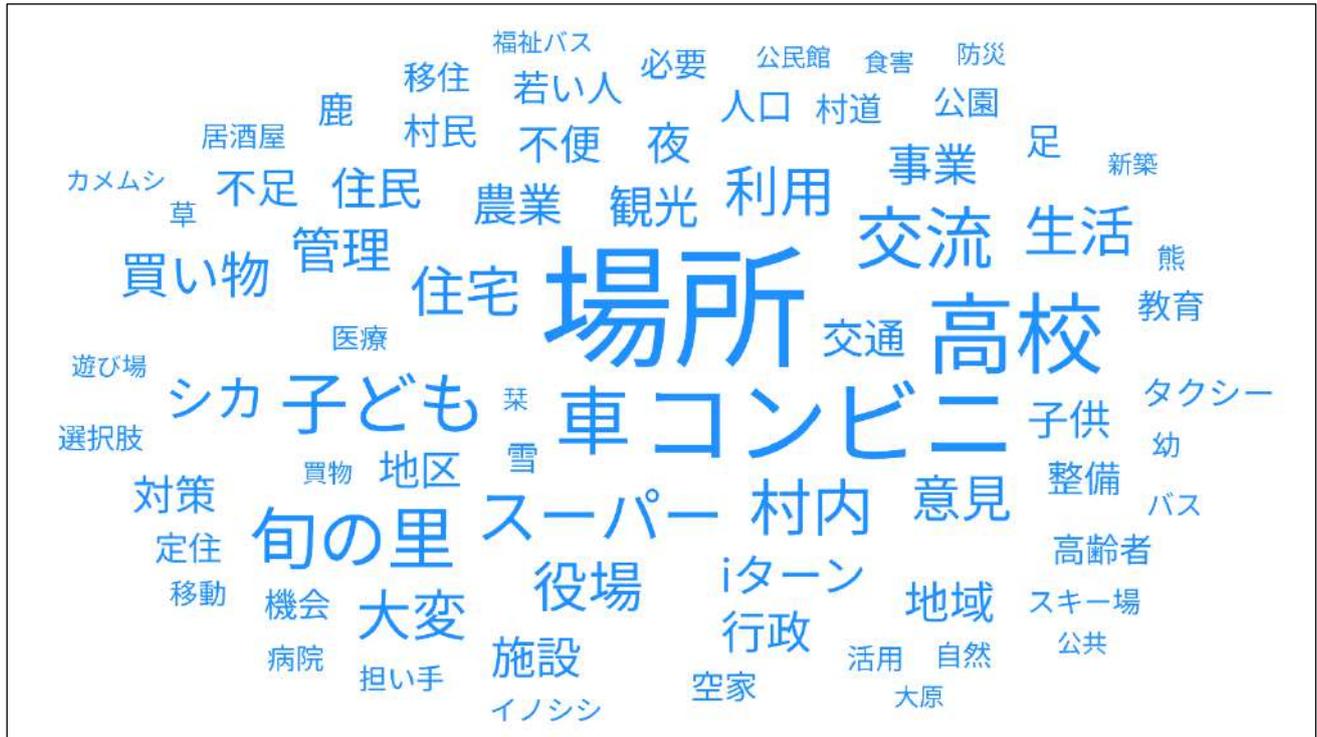
西粟倉はこんな村	経済規模は小さめだが、所得は平均。事業所は少なめで、村外勤務が多い。
----------	------------------------------------

項目	単位	西粟倉村	他自治体平均	19 位中○位	調査時点
売上金額（売上高、営業収益、完成工事高など）	億円	37	45	11	2020 年度
課税対象所得	億円	15	15	8	2023 年度
事業所数	—	86	106	11	2020 年
昼夜人口比率（100%を超えると昼の方が多い）	%	92	99	16	2020 年



## ②村の弱み

▶ 意見の中で多く出てきた単語（文字が大きく中央に近い単語が多く出てきたものとなります。）



▶ 多かった意見（一部）

場所	車	高校
買い物の場所が少ない	車ないと何にもできない	高校の選択が少ない。ほぼできない
住宅が少ない（住む場所がない）	買い物環境が悪い。自動車等使えない場合	高校に通うのが不便…
放課後遊び場所がない	車が必須	高校がない

▶ 意見全体の要約

コンビニやスーパーなど買い物がとても不便で、高校もなく、車がないと生活できません。働く場所や住む家がなく、クマやシカが多いことへの不安や、地域活動の負担の重さ、意見や事業が続かないという声が多く寄せられています。

### (3) 村民・職員の「やってみよう」

「やってみよう」は、計画を村民の皆さまと一緒に進めていきたい、役場の職員もやってみようという気持ちで施策を進めていきたいという思いから、計画案作成後に村民の皆さまにお聞きしたものとなります。ここでは、主な「やってみよう」をまとめています。

#### ① 村民のやってみよう

##### ▶ 5年間のうちに自分自身のやってみようと思うこと

フルマラソンにチャレンジする	得意分野を活かして貢献できる方法を考え形にしている	身体を鍛える	自分の生きがいを探す!!	富士山のぼりたい!
採用にとどまらない人材の紹介(研究・アート分野)	運動習慣をつける	勉強・資格をとる!	大学に行く長女、高校に行く次女の学費を稼ぐ	畑
90代になる実家の両親の面倒	自分の今、普段の時間を、毎日できないかもしれませんが、1日5分でも体を動かしていこうと思います。	ハード事業を計画し若杉原生林を売り出す	起業	まだまだ元気なうちにいろいろなチャレンジする
自分時間をつくる	村内の店で買い物をする	米づくり	庭に池をつくる	ふるさと会の再会
イベントスタッフ	自給自足生活(野人生活)	料理を作れるように!チャーハンくらいな1品ものは少し作れるが、3品、4品、5品作れるように	2027 村内採用のハブ化。採用に困らない会社を特産品からの紹介や転籍といった環境づくり	あわくら会館におけるイベント参加数を増やしていく。60歳を迎える前にせっかく有るイベントに少しでも参加出来るようにしていこうと思います。

##### ▶ 計画に関してこんなことやってみよう

普段の散歩で「生き物や植物」に目を向ける。	村の良い所を、人に伝える(こんなお店がある、こんな活動、取り組みしている)	弁当はコンビニでなく、村内で買う	アプリ村民票周知	良い森林整備計画の策定支援
山や森で雇用を増やす	教育も西粟倉のミリョクにしていく	子どもから大人まで、健康づくりと文化	村民運動会の復活!!(運営委員方式で行う)	ゆるやかに村と出身者がつながる
イベントで戻ってくる(関わり方をつくる)。村のミリョクをきちんと届ける	教育移住を発信する	Uターンの人が増えるよう、声がけ	様々な場に行き、村を知る	良さを会う人に伝える
移住、PRに!	全国のいろいろな分野で活躍する人を招聘して村民の皆さんと話し合える場を作りたい	西粟倉の素晴らしい学びのコンテンツを外発信と、村外の子ども達が学びや体験を求めて来村する	東京出張した際に村産品やアプリの営業をする	生物多様性の国際基準づくりと村をつなげる
一人当たりの国保医療費が上がらないように今以上に体を動かして、食生活に気を付けて、日々を過ごしていこうと思います	まずは総合振興計画を理解し、人に説明できること。その上で会社のビジョンにのっとり実行	起業支援・教育をやってみる(経理・財務の知識を生かす)	健康、つながり、高齢でも安心活躍のつくるサポートしたい。下支え。	海外の方がおられたら、すすんで話しかける!!

## ②職員をやってみよう

➤ 5年間のうちに自分自身のやってみようと思うこと

自分の生きがいを探す	早寝早起き	お金を稼ぐ	毎日、3分でも運動と腹八分	料理をもっと覚える
公務員、JAなどの団体職員の副業制の導入によりマンパワーを向上させる	アプリを作ってみる	週に一度は体を動かすようにする	いろんな所へ行ってみたい。特に信州や岐阜	健康促進
健康でいる(心も体も)	倒立できるようになる(今、壁倒立しかできないので)	フルマラソンにチャレンジする	ミシュランの星が付いている飲食店でご飯を食べる	地区・自治会への協同参画の意識改善
子どもに、スキー・スノボ・水泳・ピアノを教える	整理整頓	料理できるように	あと2キロ減量する	自然の中で遊ぶ
受験生を支える	任意地点の人工構造物を含めた日照計算アルゴリズムの開発	散歩、筋トレ、お腹割りたい	何かの資格を取得する	生きがいを探す。仕事のなかで、プライベートで

➤ 計画に関係してこんなことやってみよう

備蓄品の棚卸し、簡単に整理・維持できる仕組み(どこになりがあるか分かって安心できるように)	AIを使い倒す	情報発信ツール整理	日本の教育・子育ての固定概念から抜け出して、自分を愛することが自然にできる村づくり	海外の方がおられたら、すすんで話しかける!!
「ないから」、「遠いから」ではなく子ども達の「やりたい」を大事に「じゃどうしたら出来る」を考えていきたい	村の教育を村の魅力にする	空き家の利活用	子どもから高齢者まで健康づくり。参加できるスポーツ、企画	職員スキルアップ塾の実施
村の教育を村外へ情報発信する	来やすい役場→住民×職員、近すぎず、遠すぎず	一人暮らしの高齢者の集合住宅。長屋のようなもので、2階に単身の若者が住むと、見守りにもなる。今の村営住宅は若い世帯へ住んでもらいたい。	志戸坂まんじゅうを村の名物に!!	運動をする。食事に気をつける
元気よく挨拶する	支援法人と連携し空き家利活用を進める	地域存続・継続施策×教育(地域共同・地域愛)例:農業担い手不足に対する学びながらの支援活動体験	属人的になっている役場業務を一般化していく	地域の方と子どもたちとの交流
ドローンの平和活用(夜空に)、ドローンサッカーの活用、百年の森林構想とタイアップ!!!	林業関係の展示イベント時に森林以外の部分の西粟倉村をPR	生物多様性保全に係る活動に参加する。ゴミ拾い、実態調査等のお手伝い。	子どもの作品をプロジェクト・マップで行う(地域の行事とタイアップ!)	「生き物や植物」に目を向けて生物多様性の国際基準づくりと村をつなげるに参加したい

## (4)アンケート結果

### ①村民の幸福度

『生きるを楽しむ』という村のキャッチコピーの状況を把握するために、毎年「とても幸せを10点、とても不幸せを0点」としてお聞きしています。2024年度は平均点が7.1点となり、毎年度上昇傾向にあります。

また、2024年度は国：6.5点、岡山県：6.5点となっており、西粟倉村の方が高くなっています。

年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
幸福度平均点	6.5点	6.7点	7.0点	7.1点

### ②生活における満足度

村での生活に関わる満足度は、やや上昇：1項目、ほぼ横ばい：23項目、やや低下：2項目、低下：1項目と、全体としてみるとほぼ横ばいの状況になっています。

満足度が高い項目は、「上水道の整備、下水・ごみ・し尿の処理、幹線道路や生活道路の整備」、満足度が低い項目は、「高校への通いやすさ・身近に購入できる買い物の便利さ」となっています。

区分	項目	2024年度
上位3項目	上水道（簡易水道）の整備状況	81.1%
	下水・ごみ・し尿の処理	77.5%
	幹線道路や生活道路の整備状況	65.5%
下位3項目	スポーツ・レクリエーション施設の整備状況	11.6%
	身近に購入できる買い物の便利さ	6.7%
	高校への通いやすさ	1.9%

### ③定住意向

「あなたは西粟倉村にこれからも住み続けたいですか」とお聞きすると、約半数の方が「ずっと住み続けたい」と回答しています。また、「ずっと住み続けたい・当分は住んでいたい」という定住意向のある方は、7割程度で推移しています。

年代別では、39歳以下の定住意向が約4割と、若い方の定住意向が低くなっています。

選択肢	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
できる限りずっと住み続けたい	50.5%	54.6%	46.0%	48.9%
当分は住んでいたい	17.3%	17.5%	23.2%	17.5%
しばらくは住むつもりだが将来は転出をしたい	5.5%	4.1%	10.9%	7.9%
西粟倉村外に移りたいが具体的な計画はない	5.5%	4.1%	5.6%	4.8%
近いうちに西粟倉村外へ移る予定がある	2.9%	0.4%	1.3%	2.7%
よくわからない	7.3%	10.0%	5.6%	9.7%
考えたことがない	6.0%	7.1%	7.3%	8.5%

# 総合振興計画の構成と位置づけ

## (1) 総合振興計画とは

村全体の方向性を決める村の最上位計画であり、西粟倉村がどのような将来を目指すのか、その将来のために何をするのかを定める計画となります。

## (2) 計画の構成

計画は大きく基本構想・基本計画に分かれており、それぞれ次の内容をまとめています。

基本構想	村の将来像、人口ビジョンなど
基本計画	施策体系と分野ごとの取組内容

## (3) 計画の期間

本計画は、2021年度からの10年間の計画の後期にあたり、2026～2030年度の5年間の計画期間とします。

R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
基本構想（10年間）									
前期基本計画（5年間）					後期基本計画（5年間）				

## (4) 他の計画との関係性

西粟倉村においても各分野で計画を策定しており、総合振興計画は全体の方向性を示すもの、具体施策は分野別計画において記載するという整理となります。

また、総合振興計画及び分野別計画においても記載のない項目がありますが、必要なことは計画に記載がなくても実施し、注力していくことを計画書に記載するものとします。

全体の方向性	総合振興計画（地方版総合戦略を兼ねる）
具体施策	分野別計画 SDGs 未来都市計画 地球温暖化対策実行計画 教育振興基本計画 子ども・子育て応援プラン 高齢者福祉・介護保険事業計画 など

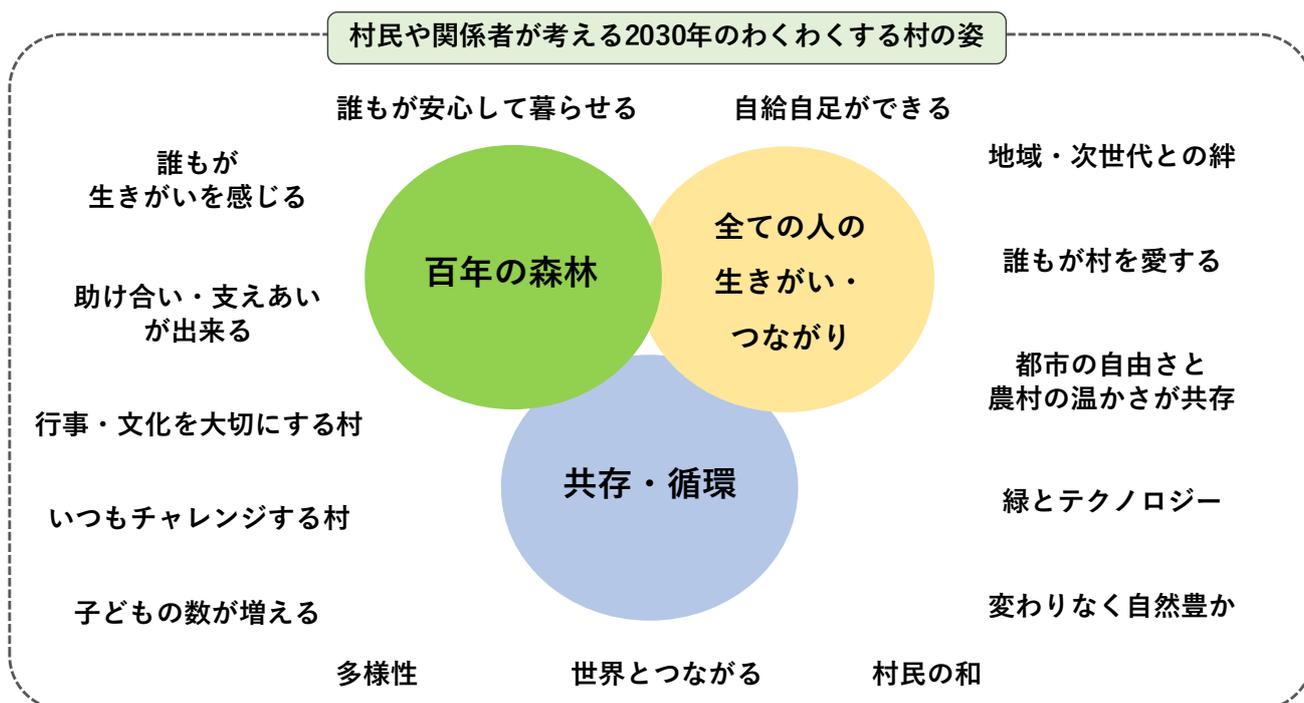
# 基本構想

## (1)むらの将来像（どんな村でありたいか）

### 生きるを楽しむ 百年の森林に育まれたむら

## (2)むらづくりの基本理念（大切にしたい考え方）

①全ての人の「生きがい」を育む	②豊かな自然とのつながりを育む
<p>全ての西粟倉村に関わる人が、その人らしさを認め、活かし、活躍できるむらづくりを目指します。</p> <p>そして、生きがいを感じ、住み続けたいと思えるむらづくりを目指します。</p>	<p>村の大きな魅力であり資源でもある森林をはじめとした自然を今後も守り育てるとともに、子どもから高齢者まで自然を身近に感じるむらづくりを目指します。</p>
③将来への希望を育む	④村民が関わりあい・支えあう
<p>ICTやIoTなどの基盤とDXに取り組むための環境を整え、村が抱える立地的な課題と向き合い、未来志向の安全で安心な暮らしのできるむらづくりを進めていきます。</p>	<p>多様性を尊重しつつ、支えあい誰一人取り残さないむらづくりを目指します。</p> <p>また、自立した自治体として健全で安定した財政基盤を確立し、柔軟な行政運営を行います。</p>



### (3)人口ビジョン（人口の予測と目標）

目標	2050年に1,000人を維持（現状のままでは817人に減少）		
達成すべきこと	20～30代男性	毎年の社会増減	+3人（2020～24年平均より2人改善）
	20～30代女性	毎年の社会増減	±0人（2020～24年平均より3人改善）

#### ①国の推計と類似自治体との比較

西粟倉村は、全国の人口規模に近い自治体と比べて人口減少はゆるやかである、と国の研究機関（社人研）が推計しています。

区分	2020年（国勢調査）	2050年（推計）
西粟倉村	1,398人	1,040人
人口規模に近い18自治体の平均	1,388人	687人

#### ②近年の状況

一方で、近年（2020年の国勢調査以降）は、20～30代の社会減（特に女性の転入減）の傾向が強く、人口減少がより進んでいくことが想定されます。

区分	男性		女性		
	全体	20～30代	全体	20～30代	
転入	2015～2019年平均	25.8人	15.8人	28.8人	18.4人
	2020～2024年平均	25.4人	14.2人	21.6人	13.4人
転出	2015～2019年平均	24.6人	12.2人	29.2人	18.6人
	2020～2024年平均	24.4人	13.2人	28.6人	16.0人
社会増減	2015～2019年平均	1.2人	3.6人	-0.4人	-0.2人
	2020～2024年平均	1.0人	1.0人	-7.0人	-2.6人

資料：総務省住民基本台帳移動報告

#### ③目標人口

近年の状況を踏まえると、国の推計よりかなり厳しい推計値となり、それを踏まえて村では、「2050年：1,000人を維持」を目標とします。

区分		2020年	2030年	2040年	2050年
国の推計	総人口	1,398人	1,238人	1,132人	1,040人
	近年の状況で推計	総人口	1,398人	1,177人	993人
	子ども1学年あたり	12人	9人	7人	5人
目標人口	総人口	1,398人	1,209人	1,100人	1,004人
	子ども1学年あたり	12人	9人	8人	8人

#### ④目標達成のためにすべきこと

2050年：1,000人を維持するためには、社会増減を改善させる必要があり、具体的には下表の内容を達成する必要があります。

20～30代男性	毎年の社会増減	+3人（近年より毎年2人改善）
20～30代女性	毎年の社会増減	±0人（近年より毎年3人改善）

## (4)目標人口の考え方について

日本全体で人口減少が進む中、西粟倉村においても人口は減少するという前提のもと、どのように減少していくのかということ念頭に次の2つの観点から目標を設定しています。

### ①様々な取組ができる活力のある状態（現状の人口構成）を維持

近年の状況のまま推移すると極端な少子高齢化状態に陥り、2050年以降もその傾向が加速する見込みです。

極端な少子高齢化状態となると、地域コミュニティ・生活基盤を維持することが難しくなり、様々な取組ができる活力のある状態（本計画に記載しているような攻めの施策を実施できる状態）を維持することはできなくなると考えています。

一方で、目標人口を達成すると、2050年以降も人口構成を維持したまま緩やかな人口減少が進む見込みとなります。

### ▶ 人口構成割合

近年の状況のまま推移した場合

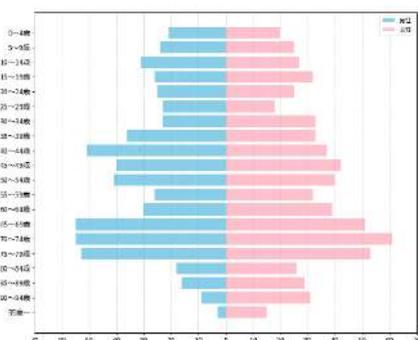
区分	2020年	2050年	2070年
0～14歳割合	12.7%	9.1%	7.5%
15～64歳割合	51.9%	48.9%	47.6%
65歳以上割合	35.4%	42.0%	44.9%
総人口	1,398人	817人	533人
子ども1学年あたり	12人	5人	3人

目標人口を達成できた場合

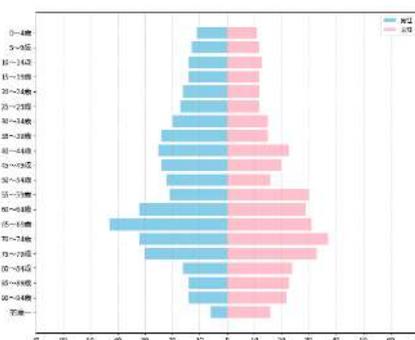
区分	2020年	2050年	2070年
0～14歳割合	12.7%	12.1%	11.5%
15～64歳割合	51.9%	53.7%	57.7%
65歳以上割合	35.4%	34.1%	30.8%
総人口	1,398人	1,004人	873人
子ども1学年あたり	12人	8人	7人

### ▶ 人口ピラミッド

2025年推定人口



2050年現状推移



2050年目標人口



## ②頑張れば手が届く（実現可能性のある）目標を設定する

9ページの「近年の状況」でも示した通り、近年（2020年～2024年）は転入出の状況が悪化しています。一方で、同じく9ページに示している「達成すべき」ことを上回っている年が10年のうち5年あるという状況でもあります。

全国的に人口減少・少子高齢化が進み、全国の自治体が移住・定住施策に取り組む厳しい環境となりますが、過去の実績からも実現可能性はあるため、「2050年に1,000人を維持」という目標を設定しています。

### ▶ 近年の転入出状況（各年）

オレンジ色は達成すべきこと（20～30代男性：毎年の社会増減+3人、20～30代女性：毎年の社会増減±0人）を上回っている年になります。

区分	男性（20・30代）			女性（20・30代）		
	転入	転出	社会増減	転入	転出	社会増減
2015年	13	8	+5	19	21	-2
2016年	14	16	-2	23	23	0
2017年	19	6	+13	17	16	+1
2018年	17	19	-2	15	21	-6
2019年	16	12	+4	18	12	+6
2020年	15	15	0	15	18	-3
2021年	20	18	+2	12	20	-8
2022年	15	10	+5	10	16	-6
2023年	11	17	-6	18	17	+1
2024年	10	6	+4	12	9	+3

資料：総務省住民基本台帳移動報告

# 基本計画

## 施策体系（全体としてどのように取り組むのか）

人口ビジョンで示したとおり、現在約 1,300 人の村が 2050 年には子どもが半減した 800 人の村となる見込みのため、人口減少対策を優先して取り組むこととします。

そのための「攻めの施策」の柱として、

生活の基本であり、挑戦の村であり続けるための『しごと』づくり

安心して生活ができ、生きるを楽しむを実現できる『ライフスタイル』の提供

対外的に注目される、村の個性を発揮し続けるための『未来への投資』の実行

攻めの施策を実行するため、村全体の生活の基盤としての「守りの施策」

として体系を整理し、攻める所は積極的かつ優先順位をつけて、守る所はより堅実に取組を進めていきます。

村の将来像	生きるを楽しむ 百年の森林に育まれたむら
優先して取り組むこと	人口減少対策

攻めの施策		
柱1：しごと	柱2：ライフスタイル	柱3：未来への投資
<b>1、基幹産業への支援</b> (1) 林業・木材産業振興 (2) 農業振興  <b>2、事業の創出と拡大</b> (1) 起業・社内ベンチャー支援 (2) 事業拡大支援・村外企業との連携  <b>3、観光と交流の促進</b> (1) 観光振興 (2) 関係人口の創出・拡大 (3) 村製品の販路拡大	<b>1、子育て支援</b> (1) 経済的支援の充実 (2) サービスの充実  <b>2、多様な住まいの確保</b> (1) 住宅の確保 (2) 空き家利活用  <b>3、生涯学習</b> (1) 生涯学習の推進 (2) 健康づくり・スポーツ・文化振興	<b>1、IU ターン促進・村の PR</b> (1) 移住促進 (2) シティプロモーション推進 (3) U ターン促進  <b>2、脱炭素・生物多様性保全</b> (1) 再生可能エネルギーの導入・活用 (2) 生物多様性保全  <b>3、教育・保育</b> (1) 西粟倉一貫教育の推進 (2) 対外的な魅力発信
守りの施策【村を支える基盤】		
<b>1、健康・福祉</b> (1) 医療・介護 (2) 共生社会	<b>2、地域基盤</b> (1) 防災・消防 (2) インフラ・交通 (3) 地域コミュニティ	<b>3、持続可能な行財政運営</b> (1) 財政運営・財産管理 (2) 行政組織運営

## 1、 基幹産業への支援

←基本施策

### (1) 林業・木材産業振興

←具体施策

【次の5年のコンセプト】
森林全体の価値を高める次のス

**【次の5年のコンセプト】**  
 具体施策全体を計画期間中において何をするのか・何を指すのかを一言で表すという観点で記載しています。

#### 施策の方向性

##### ① 百年の森林事業の継続

これまでに、百年の森林事業や森林資源の見える化などが出来ました。この基盤を継続させ、村内における経済的な雇用を創出していきます。

**【施策の方向性】**  
 どのように施策を進めていくのかについて、その内容や考え方を記載しています。

##### ② 森林資源の価値向上

百年の森林事業の基盤を維持しつつ、森林資源全体の価値向上を図るために、森林の Re Design や持続可能な森林づ

#### 【目標・行動指標】

具体施策につき一つ、目標値と行動指標を設定しています。(目標値はこれまでも設定してきましたが、行動指標は本計画から初めて用いるため補足をします。)

行動指標は、特に本計画から新しく始まる内容においてその実効性を高めるために、何をいつまでに実施するのかを記載しています。

#### 目標・行動指標

設定理由など：百年の森林事業において、これまでの森林事業の定めます。

R8	R9
森林管理計画改定	
目標値設定	

#### 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「百年の森林」というキーワード</li> <li>・森林率 95%、木と森が豊富にある</li> <li>・木で作られた建物が多</li> </ul>	

#### 【村民意見のまとめ】

地区意見交換会や村民会議でいただいた、村民が思う村の強みと弱みをまとめています。

計画策定時にどのように施策を進めていくのかを検討するための土台とさせていただくとともに、計画期間中においても職員が見返したり、様々な機会意見交換を行う際の資料とするために計画書中に記載しています。

## 攻めの施策【柱1：しごと】

「しごと」は、人が村に住み続け、新たな活力を呼び込むための原動力です。

これまで培った林業の基盤を維持・発展させるとともに、ローカルベンチャーの育成や村外企業との連携を深めることで、多様な雇用と挑戦の場を広げます。

併せて、施設整備やデジタル活用による観光振興も並行し、仕事の選択肢を増やすことで活力ある「挑戦の村」を持続可能な形としていきます。

### ➤ 施策内容

- 1、基幹産業への支援
  - (1) 林業・木材産業振興
  - (2) 農業振興
- 2、事業の創出と拡大
  - (1) 起業・社内ベンチャー支援
  - (2) 事業拡大支援・村外企業との連携
- 3、観光と交流の促進
  - (1) 観光振興
  - (2) 関係人口の創出・拡大
  - (3) 村産品の販路拡大

### ➤ 施策を進めていく上でのポイント

- 生物多様性の考え方を基に林業・農業・観光など産業を育てていく
- 森林をはじめとした村の資源を最大限活用する
- 村内・村外企業との連携で仕事を創出していく

### ➤ KPI（目標とする指標）

『自分の望む働き方や挑戦ができる機会があると感じる人の割合』

柱1：しごとを象徴する指標として、毎年度のアンケートにて状況を把握します。

そして、前年度より少しでも数値が上がるように各施策を進めていきます。

なお、アンケートは現役世代の方には自身がそう思えるか、ご高齢の方など仕事はしていない方にはそういった村だと思うか、という観点でお聞きします。

# 1、基幹産業への支援

## (1)林業・木材産業振興

<b>【次の5年のコンセプト】</b>
<b>森林全体の価値を高める次のステップへ</b>

### ➤ 施策の方向性

#### ①百年の森林事業の継続

これまでに、百年の森林事業や森林資源の見える化など、西粟倉流林業の基盤を整えることができました。この基盤を継続させ、村内における経済循環を高めるとともに、安定的な雇用を創出していきます。

#### ②森林資源の価値向上

百年の森林事業の基盤を維持しつつ、森林資源全体の価値向上を図るために、森林の Re Design や持続可能な森林づくりを進めていきます。取組を進めるに当たっては、村内事業者を取組の中心として、村外企業との連携なども官民連携で進めていきます。

### ➤ 目標・行動指標

設定理由など：百年の森林事業は継続していきますが、令和8年度に見直す森林管理計画において、これまでの森林事業の整理・目標の再設定を行う時に合わせて本計画の目標値も設定します。

R8	R9	R10	R11	R12
森林管理計画改定 目標値設定	新たに設定した目標を元に百年の森林事業を推進			

### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「百年の森林」というキーワードがある</li> <li>・森林率 95%、木と森が豊富にある</li> <li>・木で作られた建物が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦労して育てた木材の値打ちがなくなった</li> <li>・ナラ枯れがづらい</li> <li>・手入れしていない土地や暗い山がある</li> </ul>

## (2)農業振興

### 【次の5年のコンセプト】

#### 村の農業の軸をつくる

#### ➤ 施策の方向性

##### ①農業の価値向上

有機農業やオーガニックビレッジ、観光農業など、村の農産品の付加価値を向上させるためのブランディングを支援していきます。

また、付加価値向上を図るために法人による農業への支援や、林業における百年の森林協同組合のような村の農業の軸となる組織の検討を一般財団法人むらまると研究所と協力して進めていきます。

##### ②農地・農業用施設の維持

農地に関しては、中山間・多面的などの交付金を活用した保全活動を支援するとともに、法人による営農活動の販路支援などを通じて様々な主体による農地管理も模索していきます。また、老朽化の進む水路などの農業用施設についても持続可能な維持方法を検討していきます。

#### ➤ 目標・行動指標

行動指標：農業の軸となる組織づくり

設定理由など：今後5年間の農業の中心となる取組を計画的に進めていくために行動指標として実施スケジュールを設定します。

R8	R9	R10	R11	R12
組織づくり	方向性・打ち手の決定		目標に向けて取組実施	
	目標値設定			

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・お米・水・野菜がとにかく美味しい</li> <li>・近所の人から野菜をもらえる</li> <li>・目につく所に耕作放棄地が見られない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シカ・イノシシ等の食害、獣害が多い</li> <li>・担い手が高齢化しており後継者がいない</li> <li>・草刈りや水路管理が大変</li> </ul>

## 2、事業の創出と拡大

### (1)起業・社内ベンチャー支援

#### 【次の5年のコンセプト】

挑戦する人を仕組みで支える

#### ➤ 施策の方向性

##### ①ローカルベンチャーの村

これまでは、ローカルベンチャースクールなど大型プロジェクトとして運用をしていましたが、一人ひとりへの支援を充実させる方向性にシフトし、他地域とのネットワークを活かした交流・ノウハウ活用を通じて、引き続き「挑戦の村」としてチャレンジする人を支えていきます。

##### ②地域おこし協力隊の活用

村で挑戦をしたいという思いを応援するために積極的な受入れを続けていきます。  
そのために、協力隊員同士や村民との交流、先輩隊員によるサポートなど、隊員活動へのサポート体制を強化していきます。

##### ③村内での仕事のシェア

村に新たに設立した特定地域づくり事業協同組合は、働き手がマルチワーカー（複数の事業者で働く）として事業者を支える仕組みであり、組合への支援を通じて、村内企業の事業サポートと雇用機会の創出を図っていきます。

#### ➤ 目標・行動指標

目標値：地域内での起業・新規事業創出数（累計）

設定理由など：従前から目標としている指標であり、今後も「挑戦の村」としてチャレンジを支援していくため目標として設定します。一方で、創出だけではなく事業が続いていくようなサポート体制も強化していきます。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
23	28	30	32	34	36

資料：西栗倉村調べ、単位：件、基準値：令和6年度末

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャレンジする人、挑戦する文化がある</li> <li>・村内に魅力的な店（ケーキ屋等）がある</li> <li>・起業しようとするればかなりしやすい環境</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パート・アルバイトのような働き場所がない</li> <li>・事業に持続性がない、続かない</li> <li>・補助金依存で自立できていない懸念</li> </ul>

## (2)事業拡大支援・村外企業との連携

### 【次の5年のコンセプト】

官民一体で事業を拡大させていく

#### ➤ 施策の方向性

##### ①村と村内事業者との連携強化

ふるさと納税活用補助金やローカル 10000 など村と事業者が連携して資金調達を行うことで、村内事業者の事業拡大を支援していきます。

##### ②村外企業との連携強化

村ではこれまでに森林関係を中心とした連携協定を複数締結しています。これからは様々な分野において村外企業の知見・人脈・資金を村の活性化につなげるための連携を模索していきます。

##### ③企業版ふるさと納税の活用

企業版ふるさと納税は、全国的にも拡大しており資金調達のための有効な手段となっています。そのため、仲介サイトの活用やこれまでに関わりのある企業へのアプローチ、トップセールスなど様々な選択肢から村にとって適切な手段で寄付獲得を図っていきます。

#### ➤ 目標・行動指標

目標値：村外企業・団体との連携数（協定締結等）

設定理由など：村外企業との連携を進める上で分かりやすい指標のため目標として設定します。一方、ただ協定を締結するのではなく、その中身が大切であることに留意しながら連携を進めていきます。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
6	7	8	9	10	11

資料：西粟倉村調べ、数値：防災関係の協定を除く連携数、基準：令和7年度末時点

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・村内でお金が回りだした</li> <li>・新しい企業へのウェルカム感がある</li> <li>・企業活動により村に変化がある</li> <li>・先進的な取り組みをしており視察が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事の選択肢が少ない</li> <li>・視察が多いのもっと有効利用できるはず</li> <li>・企業との交流に偏りがある</li> <li>・取り組みが中途半端に感じる</li> </ul>

### 3、観光と交流の促進

#### (1)観光振興

##### 【次の5年のコンセプト】

##### 村の観光を再構築する

#### ➤ 施策の方向性

##### ①中核となる組織づくり

村の観光は現状、個々の努力にゆだねられているため、施設間・事業者間の連携や対外的PRなど中核を担う組織づくりを進めていきます。また、組織づくりと並行して村の観光における方向性を打ち出していきます。

##### ②観光の中心となる施設整備

これまでは通過されることが主であった西粟倉村を、目的地として訪れていただくために、大茅スキー場の跡地を活用した滞在型施設の整備に加えて、村の玄関口となる「あわくらんど」と閉業している「旬の里」について、再整備を検討していきます。

なお、再整備に当たっては財政状況も踏まえて検討を進めるとともに、国県の交付金だけでなく、トップセールスによる民間資金の獲得を積極的に行います。

#### ➤ 目標・行動指標

目標値：観光入込客数

設定理由など：全国共通のオープンデータであり、村の状況を客観的に把握できる指標のため目標として設定します。近年はやや減少傾向にあるため、令和9年度までは現状維持を目標とし、令和10年度以降は新規施設や観光施策による増加を目指していきます。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
26.3	26.3	26.3	27.5	28.1	28.3

資料：公益財団法人日本観光協会デジタル観光オープンデータ、単位：年度あたりの人数（万人）、基準値：令和4～6年度平均

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの温泉や道の駅がある</li> <li>・星がきれい、ホテルが見られる</li> <li>・観光客をよく見るようになった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これといった「観光の目玉」がない</li> <li>・「旬の里」などの施設が勿体ない</li> <li>・気軽に泊まれる宿泊施設が少ない</li> <li>・道の駅が古くなっている</li> </ul>

## (2)関係人口の創出・拡大

### 【次の5年のコンセプト】

#### デジタルとリアルを連動させる

#### ➤ 施策の方向性

##### ①アプリ村民票の活用

登録者数が2,000人を超えるアプリ村民票を軸として、人・特産品・施設など村の魅力を引き続き発信していきます。また、国の「ふるさと住民登録制度」の動きも注視し、村にとって効果の高いデジタルの活用を進めていきます。

##### ②村に来ていただくための導線構築

アプリ村民票登録者やふるさと納税寄付者など、主にデジタル上での関係性となっている方に、定期的に村を訪れてもらうための仕組みや村としての関係人口の定義、村を訪れていただくことによるメリットなど、実際に村を訪れていただくための導線構築を検討していきます。

#### ➤ 目標・行動指標

目標値：関係人口アプリ登録者数

設定理由など：村の関係人口創出の軸になるコンテンツのため目標として設定します。登録者数については近年の傾向を踏まえて毎年度約50人を積み上げつつ、村との関わりが濃くなるようなアプローチにも注力します。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
2,205	2,260	2,310	2,360	2,410	2,460

資料：役場にて算出、単位：人、基準値：令和8年1月末時点

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・村外の人が村を評価してくれるのが嬉しい</li> <li>・1ターンの人が多く来てくれる</li> <li>・交流人口が増えている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住者と元々いる人との交流が少ない</li> <li>・観光客が滞在・周遊する場所が少ない</li> </ul>

### (3)村製品の販路拡大

#### 【次の5年のコンセプト】

官民一体で販路拡大していく

#### ➤ 施策の方向性

##### ①ふるさと納税の拡大

ここ数年は住民一人当たりの寄付額では県内1位を維持していますが、寄付額は伸び悩んでいる状況です。そのため、西粟倉村製品のブランディングや返礼品開発や効率的な広報活動により、村内事業者のふるさと納税（販路）拡大・村のファン増加を図っていきます。

##### ②ふるさと納税以外の販路拡大

催事出店やアンテナショップ活用など、村産品をPRできる機会を活用していくとともに、村のECサイトなど、様々な形での事業者の販路拡大支援を模索していきます。

#### ➤ 目標・行動指標

目標値：ふるさと納税における村内産品・サービスの流通額

設定理由など：ふるさと納税は村内事業者にとって大きな販路となるため、産品等の流通額を目標として設定します。日用品などの大量生産品が人気になるなど競争が激化する中ですが、着実に流通額を確保できるようにしていきます。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
3,900	4,000	4,100	4,200	4,300	4,400

資料：役場にて算出、単位：万円、基準値：令和4～6年度平均

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"><li>・道の駅で野菜が売れる</li><li>・地元の人が地の物を大切にしている</li><li>・お米がおいしい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・お土産物や名産品が乏しい</li><li>・地域の特産がない</li></ul>

## 攻めの施策【柱2：ライフスタイル】

「生きるを楽しむ・上質な田舎」といった西粟倉村らしい豊かな暮らしを支えるため、日々の生活の基盤となる子育てや住まいへの支援に注力します。

また、「暮らし」ではなく「ライフスタイル」としているのは、自然もあり多様な人材がいる村の特徴を活かして、健康づくり・スポーツ・文化といった、生活に豊かさをもたらす生涯にわたる学びの環境を提供したいという思いからきています。

### ▶ 施策内容

- 1、子育て支援
  - (1) 経済的支援の充実
  - (2) サービスの充実
- 2、多様な住まいの確保
  - (1) 住宅の確保
  - (2) 空き家利活用
- 3、生涯学習
  - (1) 生涯学習の推進
  - (2) 健康づくり・スポーツ・文化振興

### ▶ 施策を進めていく上でのポイント

- 妊娠出産育児期におけるニーズに応じた切れ目のない支援の提供
- 計画的な住宅整備と空き家の有効活用
- 小さな村でも色々できる・学べる環境づくり

### ▶ KPI（目標とする指標）

『生活環境や仕事以外の日々の暮らしが豊か（楽しい）と感じる方の割合』

柱2：ライフスタイルを象徴する指標として、毎年度のアンケートにて状況を把握します。そして、前年度より少しでも数値が上がるように各施策を進めていきます。

なお、アンケートにおいて感じないと回答された方は、その理由も把握するなど、個別の施策の状況に対する村民の捉え方も把握していくことを想定しています。

# 1、子育て支援

## (1)経済的支援の充実

<b>【次の5年のコンセプト】</b>
<b>ニーズに応じた支援を提供する</b>

### ➤ 施策の方向性

#### ①支援メニューの充実

保育料の減免・無償化など国の制度を活用した支援に加えて、高校までの子どもの医療費無料・高校就学支援金などの村独自の支援も行っています。これからも、子育てをしている方のニーズを踏まえながら、支援の内容や方法を充実させていきます。

#### ②ニーズに応じた支援の検討

小さな自治体の限りある財源の中において、ニーズ把握や他自治体の情報収集・支援内容比較を行い、子育てをしている方の状況と他自治体の状況を踏まえた支援を検討していきます。

### ➤ 目標・行動指標

行動指標：村独自の支援施策の実施（1つ以上）

設定理由など：限られた予算での新たな支援はハードルが高いですが、村外企業からの支援を受けるなど工夫しながら支援を充実させていきます。

R8	R9	R10	R11	R12
情報収集・内容検討	施策実施	施策内容の見直し、新たな施策の検討		

### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就学支援金が助かる</li> <li>・ 給食の食材費などで負担がかからない工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校進学にお金がかかる（通学・下宿）</li> <li>・ 習い事などの選択肢が少なく費用もかかる</li> </ul>

## (2)サービスの充実

### 【次の5年のコンセプト】

#### 妊娠出産育児期における切れ目のない子育て支援環境づくり

#### ➤ 施策の方向性

##### ①妊娠期からの切れ目のない支援

健診助成など経済的な支援、助産師相談などの専門職のサポート、配食・食堂など食の支援、妊娠から育児まで切れ目のない支援を提供していきます。加えて、家事支援や病児保育など仕事と家庭の両立支援、父親・母親どちらもが育児に関わりやすい環境づくりを進めていきます。

##### ②地域における心地よい子育て支援

あいさつ・声掛け・ボランティア・Bambi で一緒にイベントを楽しむなど、一人ひとりができる関わり方で、子育てをしている方・地域に暮らす方・支える専門職が関わりあう心地よい子育て環境づくりを進めていきます。

#### ➤ 目標・行動指標

目標値：家事支援サービスの登録数

設定理由など：令和7年度中から村独自で始めた取組で、これからニーズも高まると考えられるため目標として設定します。小学校入学前の子どもがいる世帯の3分の1に登録いただけるようにニーズ把握や使いやすい制度設計を進めていきます。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
1	4	8	12	16	20

資料：役場にて算出、単位：世帯、基準値：令和7年度末時点

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 預かり保育・病児保育があり助かる</li> <li>・ 役場や会館が放課後の居場所になっている</li> <li>・ 先生が子供のことをよく知ってくれている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公園や遊具など、外で遊べる場所がない</li> <li>・ 休みの日や長期休暇に子供が暇を持て余す</li> <li>・ 専門的な療育などの選択肢が少ない</li> </ul>

## 2、多様な住まいの確保

### (1)住宅の確保

<b>【次の5年のコンセプト】</b>
<b>計画的な住宅整備</b>

#### ➤ 施策の方向性

##### ①村営住宅の整備

単身向け・ファミリー向けなどニーズを踏まえて住宅整備を行っていきます。

なお、整備にあたっては、既存住宅の更新・財源を考慮しつつ、長期的な視点のもと計画的に行うことを基本とします。

##### ②地区との連携

村内においても住宅や若年層の偏在は見られるため、地区の自主性を重んじつつ、各地区において移住者を受け入れるための住宅整備を進めていきます。

#### ➤ 目標・行動指標

目標値：村が主体となって整備する住宅数

設定理由など：住宅の整備が最も分かりやすく重要な指標となるため目標として設定します。なお、令和8年度中にニーズや今後の予測、予算等を踏まえて目標値を設定します。

R8	R9	R10	R11	R12
現況・ニーズ整理 目標値設定	目標に向けて取組実施			

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家賃が安い（高いという人も）</li> <li>・村営住宅の優良候補地がある</li> <li>・移住者が住みやすい環境整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賃貸・売買ともに物件（住む家）がない</li> <li>・「単身者用の住宅」がない</li> <li>・家族で住む家、ちょうどいい家がない</li> </ul>

## (2)空き家利活用

### 【次の5年のコンセプト】

#### 空き家の有効活用

#### ➤ 施策の方向性

##### ①空き家管理法人の設立

これまでは役場が空き家情報の管理を行い、空き家の利活用や入居相談は個々に委ねる形をとっていましたが、村内事業者による空き家バンク管理を行うことで所有者と入居希望者の円滑なマッチングを図っていきます。

また、空き家を住まいだけでなく、事業用途の物件としてもとらえ、他自治体の先行事例を参考としながら活用方法の検討を進めていきます。

##### ②補助制度の拡充検討

空き家改修など国の制度活用や村独自の補助を引き続き行い、仏壇の取扱いなど利活用のネックとなっている事項への対策も検討していきます。

#### ➤ 目標・行動指標

目標値：空き家に関する補助金の活用件数

設定理由など：空き家活用のベースとなる改修や除却への補助金活用を目標として設定します。近年は年3件程度の実績で推移する中、補助制度の拡充などにより、活用件数の増加を目指していきます。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
3	3	4	4	4	4

資料：役場にて算出、単位：件、基準値：令和5～7年度平均件数

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃墟が少なく目立たない</li> <li>・ 景観が保たれている</li> <li>・ 古民家を活用した店がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仏壇があって貸してもらえない</li> <li>・ 空き家の情報が少ない</li> <li>・ 売りたい人と借りたい人のマッチング不足</li> </ul>

### 3、生涯学習

#### (1)生涯学習の推進

##### 【次の5年のコンセプト】

小さな村でも色々できる・学べる環境づくり

##### ➤ 施策の方向性

##### ①あわくら会館の利活用

あわくら会館は、誰もが自由に活動でき、人がつながりやすい空間をもつ施設として建設し、多くの方に利用していただいています。これからも使いやすく・居心地の良い空間となるよう管理運営を行っていきます。

##### ②全世代に学び・発表の機会を提供

むらみっけ！文化祭を中心として、村で活動している人が発表・みんなで共有する場を引き続き作り続けるとともに、あわくら未来学からあわくら大学まで年齢を問わず学びの機会も提供していきます。

##### ③学びのコーディネート

村で活躍する人や体験の場、スポーツ・健康づくりの場など、学び（体験・活動も含む）の資源を洗い出してつなげることで、子どもから高齢者まで生涯を通した学びの機会を創出していきます。

##### ➤ 目標・行動指標

目標値：あわくら会館におけるイベント開催数

設定理由など：あわくら会館の利活用を中心として、特に個人やサークルにおける利活用を伸ばしていくことを想定しています。具体的には、現状1か月あたり約10回となっているのを計画期間中に12回程度を想定しています。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
120	123	126	129	132	135

資料：役場にて算出、数値：回数、基準値：令和6年度実績

##### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>「あわくら図書館」がきれいで過ごしやすい</li> <li>「学び」を楽しむ人が多い</li> <li>講演会などが開催されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習い事やスポーツの選択肢が少ない</li> <li>世代間交流の機会が少ない</li> <li>特定の人しか参加していない</li> </ul>

## (2)健康づくり・スポーツ・文化振興

### 【次の5年のコンセプト】

子どもから大人まで、健康づくりと文化を楽しむ

#### ➤ 施策の方向性

##### ①生涯にわたる健康づくり

村ではこれまで、子どもと大人、健康づくりとスポーツというように、年代と分野で分けた形で取組を推進してきました。これからは、子どもから大人まで生涯にわたる健康づくりを支援していきます。そのために、楽しみながら体を動かすACP（アクティブ・チャイルド・プログラム）など新しいアプローチも取り入れていきます。

##### ②文化を楽しむ・継承する

村民主体の活動に対して、活動や発表の場などベースとなる部分を支え、あわくら太鼓や獅子舞などの村の伝統を継承していくとともに、志戸坂峠など文化財の保存・整備・利活用を検討していきます。

また、子どもから大人まで自身の余暇の時間を文化・スポーツ活動で楽しむなど、生活を楽しむ活動を広げていきます。

#### ➤ 目標・行動指標

目標値：1週間の運動時間が420分以上（小学生・中学生）の割合

設定理由など：特に力を入れていく取組となる、子どもが体を動かす習慣づくりを把握できる指標のため目標として設定します。なお、目標としては、計画期間中に運動習慣のある子どもが半数以上となるように取組を進めていきます。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
33	37	40	43	47	50

資料：小中学生向けアンケート、単位：%、基準値：令和7年アンケート結果

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館やグラウンドが無料で使える</li> <li>・祭りや獅子舞などの伝統行事がある</li> <li>・文化祭で村民の活動を知れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減で団体スポーツ（バレー等）ができない</li> <li>・祭りや伝統行事の担い手が減っている</li> </ul>

## 攻めの施策【柱3：未来への投資】

西粟倉が対外的に注目をされてきたのは、村の特徴を活かしつつ先進事例となる内容に早くから投資を行ってきたことが一つの要因と考えています。

これからも持続可能な西粟倉村を形作るため、人・教育という村の基盤に加えて、村の特色となる再生可能エネルギーや生物多様性といった先進事例となるコンテンツに投資をしていきます。

### ▶ 施策内容

- 1、IU ターン促進・村の PR
  - (1) 移住促進
  - (2) シティプロモーション推進
  - (3) Uターン促進
- 2、脱炭素・生物多様性保全
  - (1) 再生可能エネルギーの導入・活用
  - (2) 生物多様性保全
- 3、教育・保育
  - (1) 西粟倉一貫教育の推進
  - (2) 対外的な魅力発信

### ▶ 施策を進めていく上でのポイント

- 移住の窓口を整える
- 再生可能エネルギー・生物多様性を村の特徴的なコンテンツとして進めていく
- 多様な学びの選択肢のある一貫教育の提供

### ▶ K P I（目標とする指標）

『村の出身者や移住希望者に村で暮らすことをおすすめてできる村民の割合』

柱3：未来への投資においては、移住者の受入れやIターンなど将来の西粟倉村を見据えた施策と記載していますが、村民が村のことをおすすめてできるかという観点は大切であり、役場もこの割合が増えるように取組を進めていく必要があると考えています。

また、無理におすすめる事ではないという前提のもと、自然に村の良いところが言える方を増やしていきたいとも思っています。

# 1、IU ターン促進・村の PR

## (1)移住促進

<b>【次の5年のコンセプト】</b>
<b>移住ニーズをワンストップで対応</b>

### ➤ 施策の方向性

#### ①移住窓口の設置

全国の状況を見ると、移住希望者からの相談や移住後のサポートまでワンストップで行う体制を整えている自治体が増えてきています。そのため、本村においても移住に関してワンストップで対応できる仕組みを構築していきます。

### ➤ 目標・行動指標

行動指標：移住窓口の設置

設定理由など：施策の方向性の記載に加えて、村の今後を考えると必要不可欠な要素のため窓口の設置を行動指標とします。一方で、移住希望者からみた村の印象を大きく左右する要素のため、スピード感を持ちつつ、着実な体制となるように他自治体の状況を踏まえながら準備を進めていきます。

R8	R9	R10	R11	R12
必要機能の整理 実施方法整理	稼働開始 コンテンツ整備	目標を設定し取組を推進		

### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"><li>・移住者が多く、受け入れる雰囲気がある</li><li>・若い人が増え、多様な人がいる</li><li>・移住者をあたたかく迎えられるようになった</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・移住後のフォローが不足している</li><li>・定住へのバックアップ（住宅等）が弱い</li></ul>

## (2)シティプロモーション推進

### 【次の5年のコンセプト】

村の魅力をきちんと届ける

#### ➤ 施策の方向性

##### ①戦略的な情報発信

西粟倉村は“奇跡の村”と評されるなど、メディアへの露出は多い自治体となっています。その一方で、情報発信においては各課・各事業に委ねられているところでした。

そのため、情報発信においては、「誰に・どのような内容を・どの媒体で」メッセージを届けるか、などマーケティングの観点を踏まえた発信に切り替えていきます。

##### ②情報発信の一元化

戦略的な情報発信をしていくためには、情報発信を統率・一元化する必要もあり、知見のある人材の確保など課題も多くありますが、一元化に向けた準備を進めていきます。

#### ➤ 目標・行動指標

設定理由など：令和8年度から村の情報発信の状況や方向性を整理し、情報発信の実行役を担う人材を活用する予定としており、その人材を中心としてSNS活用などを進めていきます。

R8	R9	R10	R11	R12
情報発信体制の整理 目標値設定	新たに設定した目標を元に戦略的な情報発信を実施			

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的に有名、注目されている</li> <li>・岡山の「北の玄関口」である</li> <li>・メディア等で取り上げられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージと現実（暮らし）にギャップがある</li> <li>・村外へのアピール不足</li> <li>・知名度が生活実感と結びついていない</li> </ul>

### (3)U ターン促進

#### 【次の5年のコンセプト】

ゆるやかに村と村出身者がつながっている

#### ➤ 施策の方向性

##### ①高校・大学期における村とのつながり

村内に高校がないこともあり、これまで中学校卒業以降から二十歳のつどいまでの間は村の情報や村内の仕事など情報提供を十分にできていませんでした。

高校や大学は将来設計の重要な期間となるため、「村の現状を知ってもらい、村での生活も選択肢として考えてもらえる」ような情報提供を行っていきます。

また、高校進学後は村とのつながりが薄れてしまうという課題については、高校通学を支援する教育分野の施策だけではなくUターン施策の一環としても検討を進めていきます。

##### ②村出身者のコミュニティづくり

情報提供と同様に、村出身者のコミュニティも高校・大学・社会人となるにつれて薄れていく状況であったため、ゆるやかな形のコミュニティを作ったり、村外在住となってもあわポ付与を行うなど、村と出身者がつながり続けるための取組を行っていきます。

#### ➤ 目標・行動指標

目標値：村出身者のSNSコミュニティ参加人数

設定理由など：ゆるやかな形で村とつながるきっかけをつくるためのSNSコミュニティづくりを令和7年度から進めており、これから村出身者となる方の半数以上はSNSコミュニティでつながっているという状況を作りたいと考えています。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
54	60	66	72	78	84

資料：役場にて算出、単位：人、基準値：令和7年度末時点人数

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元に戻ると「おかえり」の言葉がある</li> <li>・Uターンの待遇が良い</li> <li>・実家があり安心感がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Uターン者が就職できる仕事がない</li> <li>・Uターンを増やす施策をもっと強化してほしい</li> <li>・一度出ると戻るタイミングが難しい</li> </ul>

## 2、脱炭素・生物多様性保全

### (1)再生可能エネルギーの導入・活用

#### 【次の5年のコンセプト】

#### カーボンニュートラルを全村に広げるための準備期間

#### ➤ 施策の方向性

#### ①カーボンニュートラル（CO2 実質排出ゼロ）の実現

西栗倉村は「脱炭素先行地域」に認定され、施設の集中するエリアを 2030 年までに、全村で 2050 年までのカーボンニュートラルの実現を目指しています。

そのために、小水力・太陽光・バイオマスなどの再生可能エネルギー導入を引き続き推進していくとともに、電力の発電と消費の見える化を進めていきます。

#### ②全村に取組を広げる準備

これまでは施設の集中するエリアにおける取組を中心としており、まずはこの取組を専門的な知見を取り入れながら進めていきます。

併せて、カーボンニュートラルの取組を全村に広げていくために、広げ方や具体的施策の検討を進めて次のステップへとつなげていきます。

#### ➤ 目標・行動指標

目標値：村内の電力による CO2 排出量

設定理由など：2050 年までのカーボンニュートラル達成を目指すという長期の目標を掲げているため本計画においても CO2 排出量削減を目標とします。なお、令和 8 年度中に公共施設における再生可能エネルギー導入が完了予定となり、その後の数年間は省エネ等による緩やかな削減を見込んでいます。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
3,089	2,800	2,780	2,760	2,740	2,720

資料：役場にて算出、単位：t-CO2、基準値：令和 6 年度

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・水力発電や再生可能エネルギーの取り組み</li> <li>・地下水で冷房をしている</li> <li>・環境意識が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家屋の断熱対策が弱く、家が寒い</li> <li>・冬の燃料代（灯油・ガソリン）がかかる</li> <li>・省エネ改修などの補助が欲しい</li> </ul>

## (2)生物多様性保全

### 【次の5年のコンセプト】

#### 生物多様性に向けた取組の起点となる村に

#### ➤ 施策の方向性

##### ①生物多様性の起点となる村に

西粟倉村を拠点とする「一般財団法人 ネイチャープレナージャパン」が設立され、自然に関する事業を起こす人材の育成がスタートします。

村においても企業版ふるさと納税の制度を活用した財団への支援に加えて、生物多様性を測る指標を検討し、西粟倉発の環境と経済をつなぐコンテンツとなるように準備を進めていきます。

##### ②村の自然環境の保全

近年は、増えすぎた人工林を必要な部分は自然林に戻す取組や、オオサンショウウオがのびのびと暮らせる川の再生などを進めており、村内においても多様な生き物が暮らせる環境づくりを引き続き進めていきます。

また、鹿など自然環境や農作物を脅かす有害鳥獣についても、全国的に抜本的な対策がない中ですが、知見を有する方のアドバイスを受けながら対策を模索していきます。

##### ③資源循環の推進

これまでの主流は「生産→消費→廃棄」の一方通行の流れであった所を、資源を循環させる「サーキュラーエコノミー」の考え方を取り入れて、村の経済循環・資源循環を進めていきます。

#### ➤ 目標・行動指標

目標値：5種以上の樹種が生えている森林面積

設定理由など：様々な生き物を育む環境づくりのために、多様な木々からなる森林を育てることを目標とします。具体的な目標値は令和8年度に見直す森林管理計画において検討し、単に面積を増やすという観点ではなく森林の階層構造や水辺環境などの要素も踏まえて検討します。

R8	R9	R10	R11	R12
森林管理計画改定 目標値設定	設定した目標に向けて取組を推進			

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>オオサンショウウオやホタルがいる</li> <li>生きものが身近にいる</li> <li>自然が豊かで川がきれい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クマやシカが生活圏に出てきて危険</li> <li>川が泥で埋まっている箇所がある</li> <li>獣害対策の柵で景観が悪くなる</li> </ul>

### 3、教育・保育

#### (1)西粟倉一貫教育の推進

##### 【次の5年のコンセプト】

コンパクトかつ多様な人材がいる村の強みを活かす

##### ➤ 施策の方向性

##### ①成長に応じた体系的な学びの提供

村に保育園・幼稚園・小学校・中学校が1つずつあるという強みを活かして、英語やICT教育など成長に応じた体系的な学びを提供していきます。また、村内の先生が集まるネットワークにより、状況共有や進級・進学時の学びの継続を図っていきます。

##### ②地域を学ぶ機会の充実

豊かな自然や多様な人材がいるという村の強みを活かして、あわくらみらい学（ふるさと学習）を地域教育コーディネーター（一般社団法人 Nest）により学校と地域をつなぎながら実施していきます。併せて、村で活躍する大人との関わりを増やし、子どもたちが課題を見つけ、解決のための実践をする機会を増やしていきます。

##### ③子どもたちの学びや放課後の環境整備

子どもたちの放課後の時間を体験の場・キャリア教育の場としてとらえ、学童で過ごすだけではなく、部活・スポーツ・体験・学びなど多様な選択肢から選べ、個々の成長につながるような仕組みを検討していきます。

また、保育園の認定こども園移行や幼稚園舎の学童での利活用という子どもたちが暮らす環境についても検討を進めていきます。

##### ➤ 目標・行動指標

目標値：地域の人が参加した小中学校の活動及び授業数

設定理由など：コンセプトにも記載のとおり、多様な人材がいるという村の強みを活かして西粟倉らしい学びを作っていくために目標として設定します。計画を策定した当初（R2）は29回であり、大幅に増やしてきた中で今後も着実に機会を作っていきます。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
75	78	81	84	87	90

資料：役場にて算出、単位：回、基準値：令和6年度実績

##### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数で先生が目が届く、手厚い</li> <li>・「ふるさと元気学習」がある</li> <li>・保・小・中が村内にある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係が固定化してしまう</li> <li>・こども園（幼保統合）にしてほしい</li> <li>・延長保育などの柔軟性が欲しい</li> </ul>

## (2)対外的な魅力発信

### 【次の5年のコンセプト】

教育も西粟倉の魅力にしてい

#### ➤ 施策の方向性

##### ①情報発信

西粟倉の学びの特徴やその様子などをSNSを中心として情報発信を行っていきます。なお、村全体の情報発信体制と歩調を合わせて、発信する媒体やその内容についても整理をしていきます。

##### ②留学の受入検討

近年では保育園留学や小学校留学など主に都心部に暮らす親子が地方に数週間～数年など一定の期間を地方の学校に通い・地方で生活する、という動きが少しずつ広がっています。本村においても、体制や地域との連携など受入に向けて検討を進めていきます。

#### ➤ 目標・行動指標

行動指標：村外からの留学受け入れ

設定理由など：新たに村外から人を呼び込む手段として重要な内容のため行動指標として設定し、留学を検討している方のニーズや村でできる受け入れ体制の双方を考慮して進めていきます。

R8	R9	R10	R11	R12
コンテンツ整備	お試し受け入れ	留学受け入れの実施		
情報収集・体制整備				

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・モンテッソーリ教育がある</li> <li>・幼稚園と保育園が分かれている</li> <li>・自然の中での保育が良い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数が少なく競争心や切磋琢磨が育ちににくい</li> <li>・村外へのアピール不足</li> </ul>

# 守りの施策【村を支える基盤】

攻めの施策を支える土台として、日々の暮らしを守る「村を支える基盤」を維持していくことは欠かせません。

そのために、未病を含む統合健康管理や、災害時に孤立しないための防災体制を構築し、老朽化するインフラの計画的な更新を進めるとともに、将来にわたって村を支えるために、健全な財政運営と効率的な行政組織運営を行います。

## ➤ 施策内容

### 1、健康・福祉

- (1) 医療・介護
- (2) 共生社会

### 2、地域基盤

- (1) 防災・消防
- (2) インフラ・交通
- (3) 地域コミュニティ

### 3、持続可能な行財政運営

- (1) 財政運営・財産管理
- (2) 行政組織運営

## ➤ 施策を進めていく上でのポイント

- 人口減少を踏まえた賢く縮む（スマートシュリンク）という考え方
- 若い世代・未病からのアプローチなど予防中心の医療・介護
- 安定的な行財政運営

## ➤ K P I（目標とする指標）

『医療・介護・インフラ・交通・防災など生活基盤に不安がないと感じる村民の割合』

守りの施策は、村を支える基盤としており、それに対して村民がどう感じているかを目標として設定します。なお、アンケートにおいて感じないと回答された方は、その理由も把握するなど、個別の施策の状況に対する村民の捉え方も把握していくことを想定しています。

# 1、健康・福祉

## (1)医療・介護

### 【次の5年のコンセプト】

#### 未病を含む統合健康管理、高齢期の生活支援

#### ➤ 施策の方向性

##### ①未病からのサポート

健康診断の受診勧奨・データ活用など未病から治療まで、子どもや働き世代へのサポート、よりみちやあわくら大学、地区サロン、囲碁ボールなど個々の体の状況に合わせた社会参加、病気や介護を予防するための取組に引き続き注力していきます。

また、介護が必要となったり、見守りが必要な方に向けても関係者・専門職が連携して支援を行っていきます。

##### ②高齢期の生活を支える支援

村内においては介護サービスを提供する事業者が限られるため、介護が必要となった場合の選択肢が少なからざるを得ない状況にあります。

そのため、在宅生活や看取りなど、社会参加や介護サービスの選択肢を少しずつ増やしていけるように検討を進めていきます。

#### ➤ 目標・行動指標

目標値：一人当たり国保医療費

設定理由など：未病からのサポートを行っていく上での一つの目的が医療費の適正化となるため目標として設定します。一人当たり国保医療費は全国的に見ると毎年増加しているため、前期計画期間の令和3～7年度を下回るように取組を進めていきます。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
36,713	基準値以下を目指す				

資料：役場にて算出、単位：円、基準値：令和3～7年度平均

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"><li>診療所や歯科がある</li><li>高齢者、障がい者の方のケアがいきとどいていく</li><li>検診が受けやすい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>専門医がおらず、診療科や曜日が限られる</li><li>救急医療が弱く、大きな病院まで遠い</li><li>訪問診療の体制が弱い</li></ul>

## (2)共生社会

### 【次の5年のコンセプト】

活躍・交流の場をつくっていく

#### ➤ 施策の方向性

##### ①社会参加・活躍の場の提供

地域活動やミニシルバーなど普段の活動から仕事など社会参加の機会を提供する支援を行っています。これからも、障害のある方や高齢者の方も、活動に参加したり、できる範囲で仕事をしたりするなど、それぞれが活躍できる場を増やしていきます。

##### ②重層的支援の提供

生活をしていく上で支援が必要な方についても、家族・地域・役場・社協・事業所など関係機関が連携して、さまざまなニーズに対応できる重層的な支援を提供していきます。

##### ③多文化を受け入れる村

村には事業を営む外国人の方がおられ、海外から来られる方も多いことに加えて、中学校の海外研修など海外とのつながりは深くなっています。外から来られた方をウェルカムに受け入れることができる村の特徴を活かして、これからも多文化交流を進めていきます。

#### ➤ 目標・行動指標

目標値：高齢者の社会参加率（週1回以上仕事や地域活動に参加している割合）

設定理由など：様々な場所・機会を作っていく取組の進捗の目安となり、3年に1度必ず把握する指標のため目標として設定します。なお、将来的には50%上回るように取組を進めていきます。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
37.2	40	-	-	43	-

資料：役場にて算出（介護保険計画ニーズ調査）、単位：%、基準値：令和5年度調査

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"><li>・高齢者、障がい者の方のケアがいきとどいてい</li><li>る</li><li>・役場の対応が丁寧</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・障がい者が利用できる施設を増やしてほしい</li><li>・バリアフリー化が不十分な場所がある</li></ul>

## 2、地域基盤

### (1)防災・消防

#### 【次の5年のコンセプト】

#### 発災前後の備えと適切な支援の受入れ

#### ➤ 施策の方向性

##### ①災害への備え

大規模災害が起こると、村全体が孤立する可能性も考慮し、発災後の急性期（～3日）は村内備蓄品で対応できる体制と、ハザードマップの見直しによる適切な避難を促すための準備を整えます。また、近年の自治体防災では適切に他自治体・民間の支援を受けることが重要となっており、連携協定など必要な支援を受けられる体制を確保します。

##### ②消防団活動

消防活動に必要な装備・備品の配備や、定期的な設備点検・訓練により、火災発生時に適切な対応ができる体制を維持していきます。

#### ➤ 目標・行動指標

目標値：放水訓練における消防団各班における水出し成功率

設定理由など：団員数の維持が難しくなる中で、消防団において消火活動が当たり前に行える体制を維持していくために目標として設定します。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
90	100	100	100	100	100

資料：役場にて算出、単位：%（非常呼集において確認）、基準値：令和7年度実績

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"><li>・自然災害が少ない、安心</li><li>・消防団の集まりが良い</li><li>・地域で助け合う文化がある</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・災害想定区域（土砂・浸水）への不安</li><li>・防災無線の内容が聞こえにくい</li><li>・消防団員の負担増や高齢化</li></ul>

## (2)インフラ・交通

### 【次の5年のコンセプト】

#### 老朽化への対応と移動支援のあり方検討

#### ➤ 施策の方向性

##### ①インフラの維持

道路や上下水道などのインフラは、全体的な老朽化が進んでいるため、緊急的な修繕を除いて、緊急度や優先度などの尺度を設けて計画的な更新を進めていくとともに、持続可能な運用のための必要負担のあり方を検討します。

併せて、橋梁の歩道への用途変更による維持管理コストの削減など、地域の意見も聞きながらインフラのあり方を検討していきます。

##### ②村民の移動支援

タクシー補助や福祉バス運行などの交通施策を維持しつつ、子どもたちの遊び場への移動手段など高齢者に限らず、村民の移動手段の状況把握と移動支援のあり方を検討していきます。

#### ➤ 目標・行動指標

目標値：水道の管路更新率

設定理由など：計画的な更新を進めていかないと将来のコストが大幅に変わるインフラの代表として水道の管路更新を目標とします。なお、更新作業は優先度の高い区域から進めていく予定としています。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
0	0	2.8	5.6	8.3	10.9

資料：役場にて算出、数値：%（更新した管路／全体の管路延長）

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 高速道路・鉄道があり都市部へ行きやすい</li><li>・ 除雪が早くて丁寧</li><li>・ Amazon が翌日に届く</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ コンビニ・スーパーがなく買い物が不便</li><li>・ 車がないと生活できない（免許返納後）</li><li>・ 公共交通（バス・タクシー）が弱い</li></ul>

### (3)地域コミュニティ

#### 【次の5年のコンセプト】

#### コミュニケーションの機会創出

#### ➤ 施策の方向性

##### ①職員と村民の関わり

村外出身者の増加、事務効率化による地域に赴く機会の減少など、職員と村民が関わる機会は減少していますが、小さな村だからこそ普段からのコミュニケーションを取る意義は大きいと、定期的な意見交換の場などの機会を設けていきます。

加えて、さまざまな世代の方とコミュニケーションが取れるようなアプローチも模索していきます。

また、区長会や様々な役の集まりなどで要望を受け取った際には、個々のやり取りとせず、公に回答することで適切な対応をしていきます。

##### ②各地域の組織

村内では、地区によって規模も異なりますが、他の自治体と比べると小規模の地区が多いという特徴があります。

それぞれの地域の役については、地域のコミュニティや普段の生活のために必要な存在ではありつつも、人口減少につれてその負担は大きくなるため、内容・体制などについては必要に応じて見直しを行っていきます。

#### ➤ 目標・行動指標

目標値：職員と村民の意見交換の機会

設定理由：施策の方向性の記載のとおり、コミュニケーションの機会をつくることが重要と考えているため目標として設定します。計画策定時に実施した地区意見交換会のような形で、2年に1回は各地区で実施していきます。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
12	6	6	6	6	6

資料：役場にて算出、数値：回数、基準値：令和7年度実績

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"><li>・人がやさしい、あいさつをする</li><li>・「あわくら会館」にみんなが集まる</li><li>・困った時に助け合う</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・噂がすぐ広がる</li><li>・閉鎖的、同調圧力が強い</li><li>・近所付き合いや「役」の負担が重い</li></ul>

### 3、持続可能な行財政運営

#### (1)財政運営・財産管理

##### 【次の5年のコンセプト】

##### 中長期的にみた安定的な行財政運営

#### ➤ 施策の方向性

##### ①適正な財政運営

物価高などによる経常的な管理コストの上昇や基幹施設更新に伴う地方債の償還など厳しい財政状況にある中で、各事業における適正な執行や中期的な全体管理を行い健全な財政運営に努めていきます。

##### ②財源確保

国県等の交付金・補助金を最大限に活用することはもとより、企業版ふるさと納税や連携協定など民間資金の活用を念頭に置き、能動的に財源確保を行っていきます。

##### ③財産管理

基幹施設や村営住宅など村有財産は多岐にわたっていますが、老朽化による維持管理コスト増加に備えて、更新・除却・長寿命化など長期的な視点のもとに方針を検討していきます。

#### ➤ 目標・行動指標

目標値：実質公債費率

設定理由など：大型の事業も控える中で一定の増加は見込まれますが、適正な財政運営のための基準として設定します。なお、記載の数値以下とすることを目標として設定します。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
14.1	15.0	16.3	15.9	15.4	14.8

資料：役場にて算出、数値：%、基準値：令和7年度見込み

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"><li>行政窓口の経済意識が高い</li><li>必要な投資をしている</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>豪華なトイレなど優先順位への疑問</li><li>箱物の維持費や将来の財政への不安</li><li>補助金の使い方への疑問</li></ul>

## (2)行政組織運営

### 【次の5年のコンセプト】

#### 職員のスキルアップ

#### ➤ 施策の方向性

##### ①事務の効率化

各事業の事務実施にあたっては、前例踏襲型ではなく、法令遵守のもと効率的な実施を職員一人ひとりが実践できるようにスキルアップを図っていきます。

また、AIなどの効率化につながるツールは、全庁において積極的に活用します。住民サービスのDXは、金銭的・時間的コストも勘案しつつ導入を進めていきます。

##### ②人材確保

民間企業の賃金上昇や自治体間格差など、職員採用を取り巻く環境は厳しいものとなっており、村での働き方など他と差別化できるようなPRなどの工夫による職員採用や、地域活性化起業人・地域おこし協力隊などの制度を活用した人材確保を行っていきます。

##### ③村民向けの情報発信

現状の情報発信ツールとしては、広報紙、ホームページ、告知放送、文字放送、公式LINE、SNSなどがあり、それぞれの媒体で正確に分かりやすく伝えるとともに情報を手に入れやすい環境づくりに努めていきます。

なお、デジタルから情報を得られない方もおられるため、多様な媒体での情報発信は当面の間継続していきます。

#### ➤ 目標・行動指標

目標値：自分の担当業務以外の研修に参加する職員の割合

設定理由：コンセプトにも記載のとおり、限られた職員数の中で行政運営や本計画を推進していくためには、一人ひとりが少しずつでもスキルアップを行うことが不可欠なため目標として設定します。なお、これまでは数値として把握をしていませんでしたが、全職員が自身のスキルアップに取り組めるようにサポートをしていきます。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
—	100	100	100	100	100

資料：役場にて算出、数値：%

#### ➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"><li>・役場職員との距離が近く相談しやすい</li><li>・職員の対応が親切、応対が良い</li><li>・行政の仕事が早い</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・職員数が多すぎるのではないか</li><li>・住民意見が反映されていない（トップダウン）</li><li>・役場職員の顔がわからない（つながりが薄い）</li></ul>

# 資料編

## (1)村の主な出来事・取組

年	主な出来事・取組
2004	地域再生マネージャー事業開始、合併協議会の脱会を決定（自主自立の決意）
2005	「地域新エネルギービジョン」策定（エネルギー自給率 100%の村目標に）
2006	FSC（森林）認証取得（初回）、光ファイバー整備事業実施
2007	「上質な田舎」を目指す構想づくり開始、雇用対策協議会設立
2008	百年の森林構想着想
2009	百年の森林づくり事業開始、株式会社西粟倉・森の学校設立
2012	第 5 次西粟倉村総合振興計画策定
2013	環境モデル都市選定、鳥取自動車道全線開通、ウッドスタート開始
2014	バイオマス産業都市選定、西粟倉発電所「めぐみ」リプレース、薪ボイラー黄金泉設置
2015	ローカルベンチャースクール開始、元湯リニューアルオープン、薪ボイラー元湯設置
2016	広域連携ローカルベンチャー地方創生推進事業着手、薪ボイラーあわくら荘設置
2017	地域熱供給システムの導入開始、株式会社百森設立
2018	村のキャッチコピー「生きるを楽しむ」に決定、ローカルベンチャー活用開始 平成 30 年 7 月豪雨災害、西粟倉保育園開園、西粟倉アプリ村民票開始
2019	SDGs 未来都市選定、百年の森林事業 ver.2.0 に着手 ふるさとづくり大賞（総務省）優秀賞を受賞 地域留学「さとのば大学」プロジェクト参画
2020	一般社団法人 Nest 設立、一般財団法人西粟倉むらまると研究所設立 あわくら会館・図書館オープン、森林信託事業開始
2021	あわくら会館全館オープン、地域熱供給システム竣工、あわくらポイントサービス開始 第 6 次西粟倉村総合振興計画策定
2022	あわくら会館まつり、脱炭素先行地域選定、む labo グランドオープン
2023	西粟倉百年の森林でんき株式会社設立、村の公式 LINE 誕生、病児・病後児保育「にじ」スタート
2024	100 年の森のホテル 葉オープン、学育フィロソフィセンター（Pocket）開所 智頭往来志戸坂峠史跡指定
2025	生涯スポーツ推進計画策定
2026	第 78 回優良公民館表彰優秀館「あわくら会館」受賞

## (2)総合振興計画（前期）の進捗状況

分野	施策	状況
保健・医療・福祉	健康に過ごし続けるための備え	国保特定健診受診率は計画当初より若干高くなっていますが、胃・肺・子宮がんの各がん検診受診率は継続して低下し、計画当初を下回っています。
	医療体制などの充実	病院などの整備状況や休日夜間の救急医療体制に対する不満足度が計画当初より高くなっています。
	魅力的な子育て環境づくり	乳幼児健診受診率は100%と良好な一方、保育環境や遊び場、子育てへの地域の協力に対する不満足度が高くなっています。
教育・文化	社会とつながるきっかけづくり	あわくら図書館の年間貸出冊数、生涯学習講座の実施回数、および成果発表の場が目標を上回る良好な進捗です。
	質の高い学校教育の推進	地域の人に参加する小中学校活動は良好ですが、教育環境に対する不満足度が悪化傾向にあります。
	文化に触れ、継承する環境づくり	文化系サークルの団体数が計画当初を下回った形で維持しています。
産業	地域の農業を支える環境づくり	農作物の新たな担い手確保、早場米生産量、給食への地域農作物提供回数がいずれも目標を上回って推移しています。
	林業の振興と森林の多様化と価値最大化	森林イベントや木育活動は順調ですが、年間木材搬出量と長期施業管理契約受託面積は計画当初を下回っています。
	地域の光を魅せる取組推進	主要観光施設の年間観光客数は減少しており、計画当初を大きく下回っています。

分野	施策	状況
生活環境・ 基盤整備	交通基盤の整備と持続可能な維持管理	公共交通の利便性に対する不満足度、幹線道路や生活道路の整備状況の満足度ともにやや悪化傾向です。
	長く住み続けることができる環境づくり	I Uターン世帯の5年定着率が計画当初をわずかに下回り、村に住み続けたいと思う人の割合も継続して減少傾向にあります。
	空き家対策の推進	村内の空き家率、対策を行った空き家数ともに目標を上回っています。
	地域の消防・防災力の向上	自主防災活動を行った組織数がR3年度からR6年度まで一貫して0組織/年となっています。
	ごみの減量化とリサイクルの推進	不法投棄件数は低い水準で維持していますが、資源ごみ回収量が減少傾向にあります。
協働・行政	あらゆる主体の参画・連携により地域を支える	地域づくり活動登録団体数（自治会はカウントしない）は0団体となっています。
	持続可能な行政事務の実施	職員の研修参加者数は「良好」なものの、村職員離職率がR4年度以降継続的に悪化しR6年度は37.0%となっています。
	持続可能な公共財管理と財政運営	実質公債費比率は健全ですが、経常収支比率がR4年度以降継続的に悪化し、財政の硬直化が進んでいます。
	いつでもどこでもだれでもつながる	電子申請実施業務数は「良好」ですが、BPR（業務プロセスの見直し）実施業務数はR3年度から全く進展がありません。
	取り残されそうな領域をほっとかない	会議委員等における男女比率の公開件数がR3年度からR6年度まで0件のまま推移しています。

### (3)総合振興計画策定審議会委員

氏名	役職等	氏名	役職等
新田義純	R3 公募委員・区長会会長	岡田詩織	幼稚園 PTA 会長
角田規昭	R3 公募委員	草刈進作	R7 公募委員
岡野豊	R3 公募委員	内海千夏	R7 公募委員
河野雅彦	教育委員会教育長	田畑直	R7 公募委員
春名静男	老人クラブ連合会会長	武部啓吾	R7 公募委員
岡田昌俊	民生・児童委員会会長	羽田知弘	R7 公募委員
荻野雅之	中学校 PTA 会長	白旗ちえみ	R7 公募委員
仲宗根えり子	小学校 PTA 会長		

### (4)策定経過

日程	内容
2025 年 9 月 11 日	第 1 回策定審議会
10 月 15 日 ～11 月 14 日	地区意見交換会（村民参加者 107 名、職員延べ参加者 36 名） 10/15 知社、10/17 引谷、10/22 大茅、10/24 谷口、10/27 塩谷 10/28 筏津、10/31 猪之部、11/5 別府、11/6 坂根、11/7 影石 11/12 下土居、11/14 中土居
11 月 15 日	子ども村民会議（参加者 12 名）
11 月 16 日	村民会議（参加者 17 名）
11 月 25 日	職員説明会
12 月 23 日	第 2 回策定審議会
2026 年 2 月 26 日	第 3 回策定審議会
3 月 7 日～13 日	パブリックコメント（意見提出 7 名 21 件）
3 月 7 日	計画案説明 & 意見交換会（参加者 7 名）

## (5)国の動向（地方創生 2.0）

### 「地方創生2.0基本構想」（概要）

令和7年6月13日  
閣議決定

#### 【地方創生をめぐる現状認識】

1.人口・東京一極集中の状況	2.地域経済の状況
3.地方創生をめぐる社会情勢の変化	4.これまでの地方創生10年の成果と反省
<p>○厳しさ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方の人手不足の一層の進行</li> <li>・若者や女性の地方離れ など</li> </ul> <p>○追い風</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンドの増加</li> <li>・リモートワークの普及</li> <li>・AI・デジタルなどの急速な進化・発展 など</li> </ul>	<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少問題への対処開始、地方移住への関心の高まり など</li> </ul> <p>○反省</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少を受け止めた上での対応、若者や女性の流出要因へのリーチ、国と地方の役割の検討（人手不足と東京への集中）、地域のステークホルダーが一体となった取組の不足 など</li> </ul>

#### 【地方創生2.0の起動】

#### 1. 目指す姿 = 「強い」経済と「豊かな」生活環境の基盤に支えられる多様性の好循環が「新しい日本・楽しい日本」を創る

	①「強い」経済	②「豊かな」生活環境	③「新しい日本・楽しい日本」
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立的で持続的に成長する「稼げる」経済の創出により、新たな人を呼び込み、強い地方経済を創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生きがいを持って働き、安心して暮らし続けられる生活環境を構築し、地方に新たな魅力と活力を創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若者や女性にも選ばれる地方、誰もが安心して暮らし続けられ、一人一人が幸せを実感できる地方を創出</li> </ul>
目指す姿を定量的に提示	<p>就業者1人当たり年間付加価値労働生産性を東京圏と同水準に</p> <p>など3つの目標</p>	<p>地域の買物環境の維持・向上を図る市町村の割合を10割に</p> <p>など5つの目標</p>	<p>魅力的な環境整備により、地方への若者の流れを2倍に</p> <p>など3つの目標</p>
	<p>関係人口を実人数1,000万人、延べ人数1億人創出</p>	<p>AIやデジタルを活用し、地域課題の解決を図る市町村の割合を10割に</p> <p>など3つの目標</p>	

#### 2. 地方創生2.0の基本姿勢・視点 → 令和の日本列島改造

<p>○人口減少への認識の変化</p> <p>1. 人口減少に歯止めをかけるための取組に注力</p>	<p>2. 人口減少が続く事態を正面から受け止め、社会・経済が機能する適応策も講じる。住民の基本的な生活の維持、経済成長、<u>公共サービス維持やインフラ整備、まちづくり</u>などで、民の力を最大限活かすべく、<u>官民連携</u>をさらに推進。</p>
<p>○若者や女性にも選ばれる地域</p> <p>1. 安定的な雇用創出や子育て支援等を推進したが、流出が継続</p>	<p>2. 地域社会のアンコンシャス・バイアス等の意識変革や魅力ある職場づくりにより、若者や女性が地方に残りたい、東京圏から地方に戻りたい／行きたいと思える地域をつくる。</p>
<p>○人口減少が進行する中でも「稼げる」地方 ～新結合による高付加価値型の地方経済（地方イノベーション創生構想）～</p> <p>1. 企業誘致や産業活性化等を目指したが、連携や支援不足で伸び悩み（工場のアジア移転等）</p>	<p>2. 多様な食や伝統産業、自然環境や文化芸術の豊かさといったそれぞれの地域のポテンシャルを活かして高付加価値化するとともに、<u>地域産品の海外展開</u>などにより、自立的な地方経済を構築する。</p>
<p>○AI・デジタルなどの新技術の徹底活用</p> <p>1. ICT活用やブロードバンド整備を目指したが、限定的</p>	<p>2. AI・デジタルなどの新技術を徹底活用し、地方経済と生活環境の創生を実現する。<u>GX・DX</u>によって創出・成長する新たな産業の集積に向けた<u>ワット・ビット連携</u>などによるインフラ整備を進める。</p>
<p>○都市と地方が互いに支え合い、人材の好循環の創出</p> <p>1. 移住支援などで都市から地方への人の流れを目指したが、道半ば</p>	<p>2. 関係人口を活かし、<u>都市と地方の間で人・モノ・技術の交流・循環・新たな結び付き</u>、分野を越えた<u>連携・協働の流れ</u>をつくる。</p>
<p>○地方創生の好事例の普遍化と、広域での展開を促進</p> <p>1. 市町村で様々な取組が実施されたが面的な広がりに欠けた</p>	<p>2. <u>産官学金労官士等</u>による主体的な取組と、全国津々浦々で地方創生が進むよう、<u>好事例の普遍化と広域での展開</u>を促進（例：「<u>広域リージョン連携</u>」）。</p>

### 3. 政策の5本柱

#### (1) 安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生

- ・日本中いかなる場所も、若者や女性が安心して働き、暮らせる地域とする。
- ・人口減少下でも、地域コミュニティや日常生活に不可欠なサービスを維持するための拠点づくりや、意欲と能力のある「民」の力を活かし人を惹きつける質の高いまちづくりを行うとともに、災害から地方を守るための防災力の強化を図る。

#### (2) 稼ぐ力を高め、付加価値創出型の新しい地方経済の創生～地方イノベーション創生構想～

- ・多様な食、農林水産物や文化芸術等の地域のポテンシャルを最大限に活かし、多様な「新結合」で付加価値を生み出す「地方イノベーション創生構想」を推進する。
- ・構想の実現に向けて、異なる分野の施策、人材、技術の「新結合」を図る取組を重点的に推進する。

#### (3) 人や企業の地方分散～産官学の地方移転、都市と地方の交流等による創生～

- ・過度な東京一極集中の課題（地方は過疎、東京は過密）に対応した人や企業の地方分散を図る。
- ・政府関係機関の地方移転に取り組むとともに、関係人口を活かして都市と地方の人材交流を進め、地方への新たな人の流れを創出する。

#### (4) 新時代のインフラ整備とAI・デジタルなどの新技術の徹底活用

- ・GX・DXを活用した産業構造に向け、ワット・ビット連携などによる新時代のインフラ整備を面的に展開していく。
- ・AI・デジタルなどの新技術を活用し、ドローン配送などにより地方における社会課題の解決等を図り、誰もが豊かに暮らせる社会を実現する。

#### (5) 広域リージョン連携

- ・都道府県域や市町村域を超えて、地方公共団体と企業や大学、研究機関などの多様な主体が広域的に連携し、地域経済の成長につながる施策を面的に展開する。

3

### 4. 各主体が果たす役割

(1) 国の役割	(2) 地方公共団体の役割	(3) 地域の多様なステークホルダーの役割
<p>省庁横断の連携体制を強めるとともに、地方起点の課題に対する規制改革や諸制度の見直しなど、制度的なアプローチを強化する。</p> <p><b>① 人材支援・人材育成</b> 地方創生伴走支援制度の拡充など人材支援の充実</p> <p><b>② 情報支援・デジタルツールの整備</b> RESAS、RAIDAによる情報支援の強化 地方の負担軽減につながるデジタルの活用 地方公共団体の各種指標を比較可能なかたちで視覚化</p> <p><b>③ 規制・制度改革</b> 地方起点の大胆な規制・制度改革、子育て支援の充実 税源の偏在性が小さく税収が安定的な地方税体系の構築 広域連携支援、分野横断的な制度の枠組みの見直し</p> <p><b>④ 財政、金融による支援等</b> 新地方創生交付金の使い勝手向上 地域課題解決へ民間資金の新たな流れの創出</p> <p><b>⑤ 広報周知活動と国民的な機運の向上</b> 各地で進展する地方創生の取組について、地方でこそ実感を伴う形でわかりやすく情報発信</p>	<p><b>○ 市町村の役割</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方創生2.0を現場で中心的に担う主体として、関係者を巻き込んで取組を推進。</li> <li>・政令市、中核市等の特性に応じて、維持すべき機能の高度化。</li> <li>・他地域との比較や好事例を学び、活用するとともに、人材育成にも積極的に取り組む。</li> </ul> <p><b>○ 都道府県の役割</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県は、広域自治体として、市町村間の調整や補完、市町村の状況の可視化、国との連携など、重要な役割。</li> <li>・統計指標や様々なデータを活用し市町村の状況を可視化することで、市町村の主体的な動きにつなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産官学金労言士等が相互に連携し、それぞれの人材、資金、ノウハウ等を活かして地方創生に貢献。</li> <li>・都市部にある企業・教育機関等も、地方に目を向け、それぞれの強みを活かした地域貢献と新たな発展を行う。</li> <li>・民主導でハード整備からソフト運営まで担う新しいタイプの企業城下町、人を惹きつける質の高いまちづくりの推進。</li> </ul>

### 5. 今後の進め方

- 国は地方創生2.0に向けた取組に早急にとりかかる。2025年中に総合戦略を策定。
- 総合戦略の策定にあたり、1年、3年、5年の工程表の策定や、評価指標（KPI）を適切に設定。
- 地方は地方創生2.0を推進する取組に早期に着手し、地域の多様なステークホルダー等とともに地方版総合戦略を見直し。
- 本基本構想は今後10年間を対象として策定。中間年度の5年後に必要な見直し。

4

## (6)SDGs の取組

西栗倉村は、2019年にSDGs未来都市として認定され、経済・環境・社会を循環させる統合的な取組を進めています。

本計画においても、SDGsの視点を踏まえて取組を推進していきます。

### 【西栗倉村において特に意識するSDGsのゴール（目標）】



### 【参考資料：西栗倉村のSDGsの取組の全体像（SDGs未来都市計画）】

